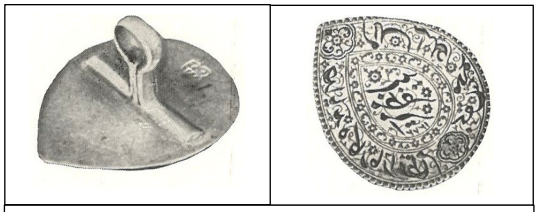
国際社会学部

木村　暁

KIMURA Satoru
地域社会研究コース／中央アジア地域
歴史学



ブハラの君主ムザッファル（位1860–85）の印章
【史料一例】印面のペルシア語銘文には王権の正統性の主張が反映（G. Kurbanov, *Bukharskie pechachi XVIII–nachala XX vekov*, Tashkent, 1987, str. 166

中央アジアの王権とイスラーム

専門は中央アジアの近世・近代史です。**マンギト朝**（1756-1920）期のブハラにおける**支配の正統性**の問題やそれにかかわる**スンナ派・シーア派関係**を中心テーマとして、**イスラーム王権論**のアプローチから研究を進めてきました。また、中央アジア・ムスリム社会におけるロシア統治をめぐる諸問題、ならびに、ソ連時代から現代にかけての**政治とイスラームの関係**や**イスラーム復興**の諸相にも関心を向け、さまざまな史料の読解に取り組んでいます。

研究紹介

中央アジア史研究では、史料はそれほど豊富ではありません。そのことによる研究の難しさを実感したのが、学部生だった頃の卒論執筆を通じてでした。以来、使える史料は類型にこだわらずに利用しようと努めてきました。こうして、**稿本**（歴史書、回想録、伝記など）、**文書**（勅令や上奏文等の行政文書、各種イスラーム法廷文書など）、**単行本**（旅行記、報告書、歴史記述など）、**定期刊行物**（新聞、雑誌）、**図像**（地図、写真など）、**金石文**（印章、貨幣、碑銘など）といった諸類型の史料を分析対象に据えています。言語としては**ペルシア語**、**テュルク語**、**ロシア語**で書かれたものを中心に扱っています。

2017年の外大着任後、**中央アジア地域研究**の実践も試みるようになりました。もともと**地域概念**と**政治史**の相関関係に興味をもっていたことから、地域概念や地域構造に主眼を置いて中央アジア地域の理解に取り組んでいるところです。

このほか、地域研究の試みの一環として、ウズベキスタンをフィールドとする人類学研究者と**現代のイスラーム復興をテーマとする共同研究**を行っています。現地の宗教学者によるウズベク語の論説を共同で日本語に翻訳したり、**民族誌映画（映像人類学作品）**の脚本・翻訳を分担したりもしてきました。そうしてできた映像作品については、本学のTUFS Cinemaのイベントとして上映会を開催し、制作者・専門家の講演の機会を同時にもうけるなど、研究成果の社会還元をはかってもいます。

【地域理解の一素材としての民族誌映画（映像人類学作品）】

『交霊とイスラーム：バフシの伝えるユーラシアの遺習』(2022)

TUFS Cinema上映会

担当授業

- 中央アジア研究入門
- 地域社会研究入門（リレー分担）
- ウズベク語（文法、読解）
- 中央アジア史概説（前近代、近現代）
- 中央アジア研究演習
- 中央アジア地域研究
- 中央アジア近現代史演習（大学院）

関連する分野

- 地域研究（中央アジア）
- 文献学（ペルシア語、テュルク語）
- イスラーム学（宗派論）
- 文明学
- 人類学・民族誌学（ウズベキスタン）

出版物

- 『近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照』(2023)
- 『イスラーム文化事典』(2023)
- 『論点・東洋史学』(2022)
- 『都市からひもとく西アジア』(2021)
- 『中央アジアから見る「人の動き」に対応する人文研究』(2018)
- 『中央ユーラシア史研究入門』(2018)

国際社会学部

中央アジア地域研究ゼミ

どのようなゼミか

本ゼミは、**基本的に現代中央アジア（ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズスタン、タジキスタン、トルクメニスタン）を対象**としていますが、参加者の関心・テーマによってはその枠を超えて広がる地域を扱うこともあります。通例では20世紀以降、とくにソ連解体後を対象時期に据える参加者が多いですが、前近代も適宜カバーします。参加者各人が見いだす地域研究上の問題（群）を共有し、いっしょに考察し議論することを重視するゼミです。

ゼミでじっさいに取り組む事柄は、①**文献講読・訳注**（テキストの読解力と分析力を養うため）、②**論文批評**（先行研究の批判的把握、研究課題の発見、論文作成技術の鍛錬のため）、③**研究テーマ発表／論文構想発表**（作業計画と課題を具体化し、卒論までの道筋を定めて前進するため）からなります。講読文献は参加者の顔ぶれをふまえて選定します。発表担当者は、発表内容のレジュメを事前に作成し、参加者全員に配布します。このレジュメに関しても、必要な情報が過不足なく、正確に、整然と示されているかなどが検討されます。このようにして、**論文を書くための訓練を積むのがゼミの主な目的**です。

　このゼミの扱う範囲（時空間としての地域）はかなり広いといえます。多種多様なテーマに取り組む仲間と議論し、たがいの考えや方法を参照しあうことで、ポジティブな刺激や啓発、ひらめきを得られるでしょうし、それは自分の研究に何らかの技術的・方法論的なプラス要素を加味したり応用したりすることも可能にするでしょう。このゼミでの学びを通じて、参加者には**歴史と現在の連続／変化／断絶の諸相、および諸地域間の共通点と相違点を見渡す通時的・共時的視座**を磨き、これをみずからの研究に活用してほしいと考えています。

【ウズベキスタンの女性の地位に関するロシア語記事講読テキストの例】

В начале 1990-х годов появилась тенденция отрицания всего, что принадлежало советскому прошлому. В первую очередь критика обрушилась на положение женщины, и спасительным якорем для многих политиков и писателей казался традиционализм и ислам. Узбекское общество начало меняется и с ним вместе – ценности. Теперь мы все чаще видим на улице религиозных женщин в хиджабах, мы столкнулись с проблемой ранних и родственных браков и с таким позорным явлением как многоженство. Зато перестали говорить о домашнем насилии и растущей женской безработице.

→ 世俗主義と宗教的価値観の葛藤を考える

Central Asian Analytical Network (CAAN), “Марфуа Тохтаходжаева: О трансформации советской женщины в мусульманскую,” 2016/11/17.
URL: https://www.caa-network.org/archives/7986

【日本語研究文献講読の例】

帯谷知可著『ヴェールのなかのモダニティ：ポスト社会主義国ウズベキスタンの経験』（東京大学出版会、2022年）の各章を分担して論評

卒論（最近提出されたもの）

- 「ウズベキスタンの国家建設：国家語の地位向上と文字選択に着目して」
- 「ウズベキスタンのメディア環境と人々の意見形成へのその影響：新型コロナウイルス感染症に関連する報道からの考察」
- 「カザフスタン共和国アルマトゥ市における電子政府ポータルの利用意図の要因分析」
- 「ササン朝時代における領域概念「エーラーン」の変遷：東方勢力との関係に注目して」
- 「ナゴルノ・カラバフ紛争の展望：アゼルバイジャン国内問題としての紛争」

おススメの本

- 東島雅昌『民主主義を装う権威主義：世界化する選挙独裁とその論理』
- 帯谷知可『ヴェールのなかのモダニティ：ポスト社会主義国ウズベキスタンの経験』
- 野田仁・小松久男(編)『近代中央ユーラシアの眺望』
- 宇山智彦・樋渡雅人(編)『現代中央アジア：政治・経済・社会』
- 小松久男(他編)『中央ユーラシア史研究入門』
- 小松久男『激動の中のイスラーム：中央アジア近現代史』
- ティムール・ダダバエフ『記憶の中のソ連：中央アジアの人々の生きた社会主義時代』